



NPO救命おかやま 会報

Vol. 15

2012. 5. 15 発行

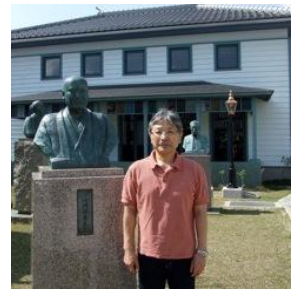


1. 担当理事のご挨拶

担当理事：薄元 亮二（薄元医院 医師）

NPO 救命おかやまの皆さん、こんにちは。津山市医師会&「作州に AED を広める会」の薄元です。理事の末席に加えていただいておりますが、職責を果たさない名ばかりの理事で皆さんには迷惑をおかけしております。

私からは、美作地域の事情を報告いたします。私たちの地域に「作州に AED を広める会」があることをご存じでしょうか。「救命おかやま」の前身である「ACLS 岡山」に触発されたこと、市民による AED の使用が可能になったこと、岡山国体における AED の設置等々の諸条件が重なり 2005 年に衝動的に創られた任意団体です。設立と日頃の活動に対して真庭、津山、美作の各消防、看護協会、歯科医師会、医師会の多大なご援助をうけてきましたことをこの場を借りてお礼を申し上げます。



さて「作州に AED を広める会」の主な活動の一つは、一般市民を対象とした心肺蘇生法の講習です。今年 3 月までに 45 回の講習会を開き延べ約 2 千人の方が、受講されました。また、劇団「心肺蘇生」を編成し、市民公開講座や消防音楽隊の演奏会で演じたこともありました。会員、インストラクターも 100 人を優に超えています。職種も学校の先生、学生、公務員、音響映像業といった医療職以外の方もいらっやあって講習会や懇親会では、異業種交流ならではのありがたさ、楽しさを感じています。また、資機材も徐々に充実し 12 ブース程度の講習会を開くことができるまでになりました。しかし、職場や学校などが自立した講習会を開くという最終目標までは、まだまだ道半ばと言ったところですが、高校生自身による伝達講習会が行われるなど少しは進歩があったかなと考えています。

もう一つの活動は、ICLS 講習会の受け皿としての役割を果たすことにあります。美作地域の医師数は、人口 10 万人比で県平均の約 2/3 と少なく、医療機関も県南部に比べ小規模のものが多くを占めています。従って、県南部のように病院単位でのコース開催はとても困難でしたが、「作州に AED を広める会」を受け皿にすることにより可能となり、昨年度までに 6 回の開催を数えることが出来ました。この間、県内外の会員、インストラクターの方たちに助けていただきありがとうございました。これからも宜しくお願い致します。コースの開催は毎회가試行錯誤の連続で CD、CC を中心に多くのスタッフによる準備会を幾度も繰り返しようやく今日に至っています。そうは言っても、収穫もたくさんありました。医療に従事していながら顔を合わせることもなかった多施設の人々が集まり、コースを成立させることでとても良い顔見知りの関係を創ることができ日常の医療にも活かされていると感じています。ICLS の資機材も BLS と同様に充実し、小物からハートシムまでこの地域で概ね用意することが出来ました。除細動器だけは手に入りませんでした。これさえ揃えば岡山まで資機材を借りに行く手間がいらなくなるのですが、どうにかならないでしょうか。

右上の写真は、津山洋学資料館で撮影しました。臍や腺といった多くの医学漢字を考え出した宇田川玄真などの興味深い資料が展示されています。AED も設置されていて学芸員の講習も私たちが行いました。皆さんどうぞお立ち寄り下さい。



2. お知らせ

今年の講演会は、帝京大学の坂本哲也教授と NPO 法人「命のバトン」代表の川崎真弓様からお話を頂きます。内容盛り沢山の会となっておりますので、皆様お誘いあわせの上ご参加お待ちしております。

※詳細につきましては、同封のパンフレットをご覧ください※

第 7 回定時総会・記念講演会・懇親会

日時：6 月 30 日(土) 15:00~

会場：岡山コンベンションセンター 2F 「レセプションホール」

3. ご報告

◆岡山県備前県民局との協働事業終了のご報告

担当理事:氏平徹(氏平医院)・角南和治(岡山協立病院 内科)

当 NPO は平成 23 年度岡山県備前県民局との協働事業として「地域に設置された AED の点検整備に関する実態調査と心肺蘇生法の普及を進める事業」を行いました。

【実態調査の対象と回答率】

岡山市、玉野市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、和気町、吉備中央町にある公共施設、教育機関、体育施設、民間施設で、人が多く集まる場所を対象とした。日本救急医療財団や市役所のホームページにある AED 設置場所情報を利用して抽出した 622 ヶ所にアンケートを送付した。平成 23 年 11 月末までに 371 施設から回答があり(回答率 62%)、内訳は、幼稚園・保育園(8)、小学校(91)、中学校(38)、高校(16)、大学・専門学校(20)、公共の施設(役所・公民館など)(99)、民間の事業所や工場(30)、商店など多人数集まる民間施設(29)、体育施設(28)、福祉や医療関連(13)であった。

【実態調査の結果】

設置場所は、小中学校では職員室が 87%、高校・大学・専門学校では体育館・廊下・屋外など活動に合わせて多岐にわたっていた。学校以外の施設では、ほとんどが玄関・ロビー・事務所内だった。

AED が何時でも使用可能なのは 32%だった。また近隣住民の AED 使用は、職員がいれば 64.4%で可能、職員がいなくても 28.6%で可能だった。多人数の集まる商店や体育施設では職員がいなくても使用可能の割合が高かった。

AED 管理担当者は 72%で決まっているが、週 1 回以上の AED 点検をしているのは 17.5%に過ぎず、消耗品であるパッドや電池は 52%が職員・個人による交換で、交換の情報源は納入業者と個人のチェックに頼っていた。

各施設で AED 使用可能・心肺蘇生術可能と思われる職員の割合は、53%の AED 担当者が「75%以上が可能」と答えたが、施設間でばらつきが大きかった。また、日本救急医療財団の AED 設置者登録システム・日赤岡山県支部の AED 検索システムを知らなかったと答えた担当者が半数以上だった。

【心肺蘇生 AED 講習会】

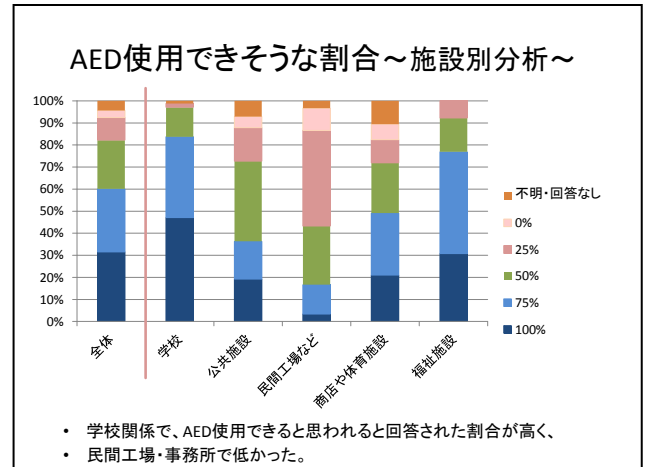
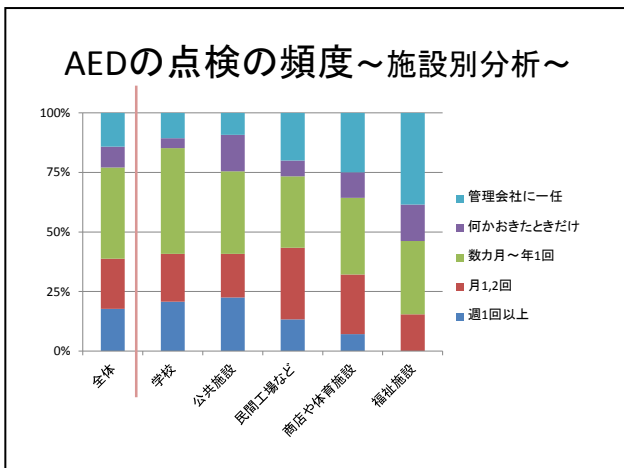
市民のための救命講習会を備前県民局と岡山県医師会との共催で 11 月 3 日に岡山コンベンションセンターで開催した。午前の部 107 名、午後の部 102 名の受講者、70 名のインスト・スタッフが参加した。午前にはバレーボールの「岡山シーガルズ」選手・コーチ 8 名も参加、午後には国会議員の見学参加もあった。また、12 月以降、県民局職員に対する救命講習会を備前保健所(岡山市)、東備地域事務所(和気町)で計 3 回開催した。

受講者アンケート結果から、楽しくわかりやすい講習会であり、心肺蘇生と AED が使用できる自信がつくものであったと評価された。G2010 では、成人の突然の心肺停止では「まず胸骨圧迫」を行い、これに AED を使用することが柱であり、この内容に沿った指導が効果的であった。

協働事業になったことで、例年以上に多くの初めての受講者の参加をいただき、受講者のすそ野を広げることが出来た。また、今回の講習会をきっかけとして、岡山県医師会から岡山シーガルズに AED が寄贈された。さらに当 NPO で作成した「心肺蘇生と AED 使用の解説書」を基に、備前県民局が日赤岡山県支部の AED 情報案内も載せた「パンフ」として改訂作成され、管内の施設に配布された。

【協働事業の報告会】

この協働事業は本年 3 月 9 日の備前県民局協働推進アドバイザー会議でも評価していただき、平成 24 年度以降の県民局事業に取り上げられると共に、県内全体に広げて欲しいと期待された。



◆ミャンマー報告

NPO 救命おかやまからミャンマーへ ～AED 寄贈・心肺蘇生講習会～

NPO 救命おかやま事務局 岡本知子
(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科救急医学分野)

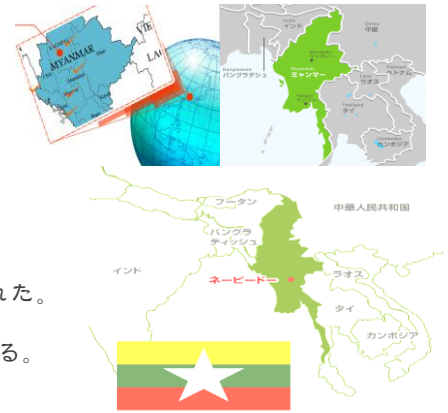
とある日、代表理事の氏家良人先生が事務局会議でこうつぶやかれた。
“NPO 救命おかやまの活動も ALC S 岡山から 10 年、そろそろ世界に
羽ばたいてみようか。ミャンマーでの心肺蘇生活動はどうだろう。
岡山から日本へ、そして世界へ。心肺蘇生講習を行い、そして可能なら、
AED を寄附しようか。”事務局会議に参加していた Staff はこの意見に
賛同したものの、参加表明は 2, 3 人。その話が現実になるうとは、その時
staff の何人が思っていたことだろう。。。

3 か月ほど経ったとある日、氏家先生が、“2012 年、年明けのミャンマー
医学会総会に合わせて行くことになりました。”と笑顔でクールにおっしゃられた。
ミャンマー行きが現実になった瞬間である。こうして、考える猶予なく、
津島先生、矢敷さん、山内先生、そして、事務局として私が同行することとなる。

ところでミャンマーとはいったいどんな国か？。。少しばかり補足しよう。
ミャンマーは以前、ビルマと呼ばれていた国で、イギリスの植民地であったが、日本が独立戦争を支援したことから、
日本に対する国民感情は極めて良好。現在、日本を含めた世界中が、資源や労働力を求めてミャンマーに注目。おり
しも、私達がミャンマー滞在中、日本では、NHK で時事総論なる番組でミャンマー特集を組んでおり、その注目度
は極めて高い。私たちの訪緬時、枝野経済産業大臣も訪緬されており、後日ホテルのロビーで私達は枝野さんと遭遇
した。

こうして NPO 救命おかやまのメンバーは、一路ミャンマーに向け、1 月 7 日の夕方岡山空港を慌しく出発した。
ミャンマー第 1 号となる AED を大切に持参して。AED トレーナーとレサシアン、講習用英語版パウチなども準備し、
意気揚々と見送りの人に手を振り出発したのだが、この時、私たちの身に起こりうる今後の事件？を誰が予想してい
ただろうか。

わたしたちを乗せた飛行機は、羽田国際空港を経由し、タイのスワンナプーム空港で乗り継ぎミャンマーのヤンゴン
国際空港へ。翌日 1 月 8 日(日)午後、無事ミャンマーのヤンゴン空港に降りた。アジア独特のもわっとした湿
気を含む空気を肌を感じながら、まずはチャトリアムホテルヤンゴンにチェックイン。元日航ホテルで高級ホテルと
いうことと、日本大使館に近いロケーションであることが、日本人（特に政界人）には好まれているホテルらしく、
枝野さんに遭遇したのも頷ける。



岡山空港出発時



ヤンゴン空港到着



チャトリアムホテル到着



枝野さん

さて、チェックイン後、食事までのわずかな時間、市民が利用し、そして観光場所でも
あるボージョーマーケットを見学。食材、衣類や生活用品から、ルビーなどの贅沢品ま
であらゆるものが混在して売られているアジア特有の市場を一回りした後、タクシーで
ホテルへ。今回移動のほとんどが関係者の車による送迎のなか、この時、貴重にも？
一般市民のタクシーを利用。しかし、床に穴が開き窓が閉まらない 30 年物の日本車は、
現地では日常でも私達には驚くべき光景である。この車に同乗したアジアが初めての
矢敷さんは、アジアのそしてミャンマーの洗礼を初日にして早くもここで大いに受けた
ことになる。

更にその夜、現地の方のご案内で向かう日本の中古車も、発車時にエンストし、しばしば
立ち往生するはめになり、私たちに迫りくる事件の予兆を感じさせる。その夜は 2 種類
のスープに肉、魚、野菜などを入れるミャンマーではポピュラーなお鍋を美味しくごち
そうになり、ミャンマーでの長い一日目は、こうしてどうにか無事に終えた。



ボージョーマーケット



2 種のスープ鍋

到着 2 日目は、今回の目的の一つである AED の寄贈式の日。ミャンマー政府厚生大臣への直接の寄贈で私たちは少々
緊張感みである。早起きをし、朝 8 時からの医学会総会開会式に臨む。厚生大臣のご挨拶をミャンマー語で拝聴する
のだが。長い演説はミャンマー語オンリー。英語も一切なし。ただ、時々聞こえてくる日本人の名は聞き取れたが、
一体それが何を意味していたのか？その後別室に通され、いよいよか、と思いきや、そこは、関係者との歓談の時間
を過ごす場所のよう。しばし朝のコーヒーとお菓子で歓談。



ミャンマー医学会総会



医学会総会場にて



会場入口にて



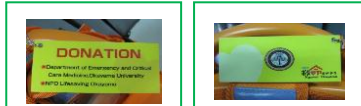
建物に日本語の礎

まつこと30分くらいだっただろうか、ようやく、その時がきた。大臣と関係者がいらっしゃる、さらなる別室に私たちは静かに招き入れられた。氏家代表から厚生大臣の手に、記念すべきミャンマー第1号となるAEDが寄贈されたのだ。その瞬間、拍手とともに、みんなの顔に笑みがこぼれた。私たちが、今回の目的の一つを達成した、ホッとした瞬間である。が、それもつかの間、氏家先生が突然、使い方を聞かれた大臣のために、AEDトレーナーによるデモを指示。本当に突然のことで、私たちがどれだけあわてたことかお分かりになっていただけるだろうか。津島先生と山内先生があわてて準備し、氏家先生による解説が始まる。寄贈したAEDと同じトレーナーは日本語のため、トレーナーに負けない大きな声で英語の説明をし、どたばたのうちに寄贈式は修了した。電源が切れなかったトレーナーからの声が鳴り続ける中、私たちは、その部屋を退席したのである。(苦笑)

ただ、矢敷さんと私は、そんな中でも、記念すべき瞬間をとどめようと、写真とビデオ撮影を取り続けることは忘れなかった。現地の取材陣と好位置を戦いながら。



寄贈式



寄贈したAED



難解な文字が並ぶ現地新聞

私たちと撮影位置を争った寄贈式の会場にいた現地の取材陣が、その出来事をTVニュースと新聞で報じたことを、私たちは現地の関係者からその後教えられる。そして、翌日にいただいた新聞には、医学会総会の重鎮に交じって、私達メンバーの姿がそこにあった。

時を戻して、2日目贈呈式の後、医学会懇親会へ出席できない厚生大臣が、私たちのために一席設けてくださった。その席で、ミャンマー第1号のAEDは国会議事堂に置くことをお伺いする。元気で役立ってもらいたいと、子供を里子に出す気分。(子供いませんけど。。。)首都ネーピードー(最初の地図の赤文字参照)に帰られる大臣とAEDを見送る。



大臣、副大臣との食事会

夜の懇親会までの時間、ヤンゴン最大の寺院シェダゴンバゴダを観光。この後、私たちは事件発生で、観光どころではなくなるため、ここが、唯一観光地らしい観光をした場所である。何トンもの金を使用して作られた寺院に、この国の資源の豊富さが窺われる。心静かに祈りをしたかったのだが、タクシーで寺院へ行くも、分かれて乗った2台目のタクシーが待てどくらせどやってこない。寺院は四方に進入口があり、どうやら別の場所におろされたらしい。時間に限りがあるため、仕方なく寺院の中に入り、30分後に境内でやっと合流。事件への複線なのか、ひたひたと押し寄せる暗雲をまだ誰も感じてはいない。

むしろ、嵐の前の静けさなのか、帰ってホテルのバルコニーからみた寺院に沈みゆく夕日は、なんとも美しい光景で、言葉を飲み込む。しばし、時を忘れてしまうほど、静寂の中に全てが包まれている。畏敬の念が自然と湧いてくる瞬間。ミャンマーの魅力を感じた瞬間でもあった。



シェダゴンバゴダ寺院



寺院の中の寝釈迦さま



言葉はいらない。。。

その夜、私達は、医学会懇親会で、VIPという札のある、座りなれていないテーブルに座る。乾杯もなく始まるミャンマー式懇親会は、説明なく戸惑う私たちを、じっと待ての予約状態に。きょろきょろして周りを見渡すと、既にあちこちでドリンクを手にして歓談している人々。食事もどンドンサーブされてくる。そろそろとうちわで静かに乾杯をして食事をいただく。そんな中、氏家先生は、後半のもう一つの大きな目的である心肺蘇生の講習会のスケジュールをミャンマーのVIPの方々と打ち合わせを一生懸命されていた。(すみません。)

その後、ホテルのロビーでタナカ(日焼け止め効果のおしろい)を塗っていただいた矢敷さんと私は、楽しそうに写真に納まっている。しかし、実はこの後写真の右下に写っているペットボトルに入っている飲みものこそが、私たちに大事件をもたらすことになる!アーメン!

さて、その飲み物とは一体?それは、現地の医師が下さった、「手作りヤシの実ジュース」。せっかくいただいたのだから、とすめられて、皆で2本を飲み干した。付き合せには同じくいただきものの、マウスの佃煮?とやらも。(ウ。。口にした後で何であるかを知る。)

私達はこのジュースを飲んで、事件の引き金をひいたのである。



医学会総会懇親会



懇親会VIP席



心肺蘇生講習のスケジュール調整中



顔が白く光っているのが見えますか?

3日目も医学会総会。この日は特にNPOとしてのイベントはなし。夜はヤンゴンの洋食レストランへご招待いただき、美味しくお食事をいただく。明日、明後日の2日間で予定している、もう一つの目的である心肺蘇生講習会を成功させるために、打合せをして、準備は万端なはずであった。。。しかし、事件は翌日の未明よりNPOのメンバーの身の上に次々に起こるのである。

4日目、講習・実習の日、といたいところではあるが、その前に事件について。

事件は、まず私の身の上に起こる。未明、突然にそれは襲ってきた。寒気で目が覚めた私を襲ったのは、朝まで途切れることなく続く激しい嘔吐と下痢。氏家先生も朝方より激しい下痢が続いておられたとのこと。その後、朝食は取れた津島先生の身にも同様の症状が。この時、山之内先生と矢敷さんにはまだこの症状は見られない。

この日は、次なる目的の心肺蘇生講習会の初日、ミャンマー最大の医科大学「ヤンゴン医科大学」へ行く予定日。行かないわけにはいかない。このためにはるばるミャンマーにやってきたのだから。残念ながら一番ひどい症状と出発時が重なった津島先生を置いて、整備されていない道を揺られながら約30分の道のり、体調の悪い私達にはかなり堪える。到着時、医科大学の歓迎のお迎えの中、氏家先生は車から降りたとたん、我慢しきれず嘔吐される。先方の先生方はとても驚かれ、症状の悪かった氏家先生と私は、医師の診察を先ず受けることとなる。血圧をはかり、吐き気止めと抗生物質の処方。落ち着いたところで、心肺蘇生講習を開始。氏家先生による講演のあと、山内先生、矢敷さんによるデモンストレーション。津島先生の技けた穴をお二人で頑張って直前の打合せで切り抜けられる。実習もわずかな時間とならざるを得ない。ただ、参加した医師や医学生は、AEDにも心肺蘇生にも、とても熱心に見聞きしていて、興味を示していることが十分伺われ収穫を感じる。吐き気の続く私達はこの後点滴投与。この状態の中、我慢してとったはずのビデオは、録画ボタンをきちんと押せていなかったのか、最初のわずかししか取れていないことに、帰りの機内でのチェックで始めて気づく始末。特に、デモで氏家先生が倒れるポーズの際、一番前に座られていた先生が、思わず立たれて駆け寄ろうと声を出されたところが撮れなかったのは、残念。デモンなので大丈夫とすぐに伝えるも、ご心配をおかけしたことに変わりはなく、申し訳なかったが事情が分かり、胸を撫で下ろしながら笑ってくださった。どうにか無事終了し、急ぎ帰るホテルへの車中で全身の震えを止めることが出来なかった私は、一人で部屋に行くことができず、矢敷さんに連れて行ってもらったほどである。

氏家先生、津島先生と私の3人は、この日すぎましい嘔吐下痢に苦しめられる。このときまでは、この事件の原因がまだ何かをはっきりとは突き止められていなかった。しかし、その日の夜から、山内先生と矢敷さんにも同様の症状が発症し、この一連の事件が、パーム椰子ジュースであろうことがだんだんと絞られ特定されていく。(この嘔吐下痢に、私達は帰国中も帰国後もかなり苦しめられた。)



ヤンゴン医科大学医師・学生と



講演風景1



講演風景2



実習風景1

診察・点滴風景

左：氏家先生の不安そうな顔
 点滴バックをかけているのは山内先生
 中：女医さんに診察を受けている岡本
 右：点滴をゲージの太い針でさされた。。



こうして、いわゆる“事件”が起こってしまうのだが、最後の日、私たちにはヤンゴンにある看護学校で講習が残っていた。前日行ける状態ではないと判断し、一度お断りをするも、どうにか頑張って、今度は5名揃って看護学校で講習を行う。ここでも歓待を受け、まずは生徒たちの教室やJICAが援助している設備を案内される。その後、氏家先生による心肺蘇生の講演、氏家先生、津島先生、山内先生、矢敷さんによるデモと心肺蘇生実習を、全員体調のすぐれない中、無事行い、成功のうちに実習を終了する。2つ目の目的を達成し、本当に本当にほっとした瞬間である。そう思わせてくれたのは、何より学生の真摯な熱意のある目だった。今度は冷静な判断の元、ビデオ撮影を行い、このビデオが帰国後、KSBイブニングニュースで放映された。



看護学生の教室訪問



看護学校心肺蘇生デモ風景



看護学校心肺蘇生講習風景1



看護学校心肺蘇生講習風景2



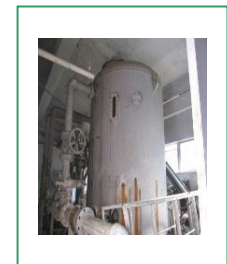
看護学校記念写真（先生方と）



看護学校記念写真（学生と）

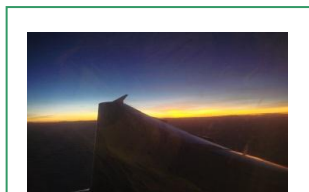


ACLSの教科書が図書館に



JICAからの設備

肝心の講習の2日間、私たちNPOメンバーは、嘔吐下痢と戦いながら講習を行うという、悲惨な事態に遭遇するも、無事目的を果す。最後の日、講習後、そのまま荷物をホテルからピックアップし、帰途につく。これが、最初から申し上げている事件の全貌であり、そして、ミャンマー報告の全容である。



帰りの飛行機の中から



岡山空港で、一応笑顔で旅の最後の記念撮影



KSBミャンマー活動放映のための取材

❖最後に❖

ミャンマー報告を書きながら、今回のミャンマーへの活動が、NPO救命おかやまの発展の一つの姿として捕らえて、とても嬉しく思いました。そして、今回ミャンマーにNPOとして協力が出来たことに関しまして、氏家代表理事、参加したメンバーやAEDの購入に尽力してくださった方々、お力添えを下さいました皆様に御礼を申し上げますとともに、NPOの会員の方々のお力で、よき活動が継続できていることに、事務局として、心より感謝申し上げます。

稚拙な文章でミャンマー報告を書かせていただき失礼いたしました。なるべく写真を多くというリクエストにお応えし、紙面を多くとらせていただきましたので、楽しんでいただければ幸いです。

◇おまけ◇



4.活動報告（平成24年1月1日～平成24年4月30日）

■一般市民向け救命講習会・その他講習会



開催日			コース名	場所	CD	受講者 (人)	インスト・ タスク (人)
年	月	日					
2012	2	13	岡山県備前県民局東備地域事務所救命講習会	東備地域事務所	氏平徹	26	7
2012	2	17	第3回岡山理科大学学生体医工学科救命講習会	岡山理科大学	市場晋吾	32	9
2012	2	23	岡山県備前県民局東備地域事務所救命講習会	東備地域事務所	氏平徹	20	9
2012	3	28	第4回ときわグループ救命講習会	岡山プラザホテル	石井史子	15	5

■医療従事者向け心肺蘇生講習会(おかやま ICLS コース+その他の ICLS コース)

開催日			コース名	場所	CD	CC	受講者 (人)	インスト・ タスク (人)
年	月	日						
2012	1	26	第125回	岡山大学	佐藤圭路	高端美智子	9	12
2012	2	12	第126回	邑久光明園	角南和治	妹尾里美	18	34
2012	2	16	岡大歯科研修医	岡山大学	氏家良人	宮脇卓也・樋口仁	18	18
2012	3	11	第127回	倉敷成人病センター	西谷恭子	西山進・片山由美子	18	45
2012	4	12	岡大初期研修医	岡山大学	氏家良人	山内英雄	12	11

■AHAコース

開催日			コース名	場所	CD	CC	受講者 (人)	インスト・ タスク (人)
年	月	日						
2012	1	8-9	BLS・PALS	岡山協立病院	榎本悟		13	17
2012	1	15	BLS	倉敷中央病院	清輔良江		8	8
2012	1	28-29	ACLS	榊原病院	津島義正		11	13
2012	2	11-12	PALS	岡山協立病院	榎本悟		6	8
2012	2	19	BLS	榊原病院	津島義正		8	7
2012	2	25-26	ACLS	榊原病院	津島義正		11	9
2012	2	25	BLS	津山中央病院	池嶋真二		2	4
2012	2	29	BLS	岡山旭東病院	浅越博之		1	2
2012	3	4	BLS	岡山大学病院	信定さおり		3	5
2012	3	10-11	PALS	津山中央病院	榎本悟		4	5
2012	3	14	BLS	岡山旭東病院	浅越博之		1	2
2012	3	17-18	ACLS・BLS	倉敷中央病院	津島義正・清輔良江		22	14
2012	4	21-22	PALS	岡山大学病院	榎本悟			
2012	4	29-30	BLS・ACLS	倉敷中央病院	清輔良江			

■医療従事者向け脳卒中初期診療講習会（おかやま ISLS コース）

開催日			コース名	場所	CD	CC	受講者 (人)	インスト・ タスク (人)
年	月	日						
2012	3	9	第9回	岡山市立市民病院	木下公久	矢敷朝代	22	26



5. 今後の開催予告（平成 24 年 5 月 1 日～）

■一般市民向け救命講習会(BLS+AED コース)



『第3回就実大学薬学部救命講習会』
日 時：5月18日(金)
場 所：就実大学(CD:津島義正)
受講者：学生 100~120名



『吉備中央町民生委員・児童委員救命講習会』
日 時：6月12日(火)
場 所：未定 (CD:石井史子)
受講者：約50名



『第4回岡山短期大学救命講習会』
日 時：6月30日(土)
場 所：岡山短期大学(CD:津島義正)
受講者：学生約100名



『第2回高梁城南高校救命講習会』
日 時：7月10日(火)・17日(火)
場 所：高梁城南高校(CD:矢敷朝代)
受講者：保健委員12名・運動部員約100名

■医療従事者向け心肺蘇生講習会（おかやま ICLS コース・その他の ICLS コース）



『第128回コース』
日 時：5月20日(日)
場 所：岡山市立市民病院 (CD:市場晋吾)



『第129回コース』
日 時：6月3日(日)
場 所：津山中央病院 (CD:木下公久)



『第130回コース』
日 時：6月10日(日)
場 所：岡山協立病院 (CD:角南和治)



『第15回指導者・第131回コース』
日 時：6月23日(土)~24日(日)
場 所：倉敷中央病院 (CD:清輔良江)

■AHA コース



PALS コース
日 時：5月19日(土)-20日(日)
場 所：岡山協立病院



ACLS コース
日 時：6月9日(土)-10日(日)
場 所：津山中央病院



BLS・ACLS コース
日 時：7月15日(日)-16日(祝)
場 所：岡山協立病院

※詳細は、AHA 岡山トレーニングサイトの HP を御覧ください。
(当 HP の開催案内にリンクボタンがあります。)

6. 事務局からのご案内

◆会費請求について

平成 24 年度の会費請求につきましては、9月発行予定の会報に同封させていただく予定にしておりますので宜しくお願い致します。また、平成 23 年度までに **3 年間で会費を滞納している会員は、自然退会**とさせていただきますのでご注意ください。(9月発行の会報からお届けいたしません。)

会費についての御問い合わせは、事務局までご連絡ください。

◆住所・勤務先の変更について

住所・勤務先の変更は、お早めに事務局までお電話・メール・FAX にてご連絡ください。

【発行元】 特定非営利活動法人 NPO救命おかやま 事務局
〒700-0914 岡山市北区鹿田町1-7-10 E-mail: kyumeiok@md.okayama-u.ac.jp
電話&FAX: 086-235-7427 HP アドレス: http://npo-ok.umin.jp

